

科目名	環境(指導法)SC							
科目名(英)								
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	藤崎 博喜			
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	保育園 園長			
対象学科・学年	社会福祉科 1年生							
授業概要	保育園「ひなた村自然塾」での農作業体験を通して、我々が何気なく過ごしている日常について考える機会を設けるとともに、「食」と「環境」についてを深く学び、私達における将来の行動指針や自然や食のあるべき姿についても深く考え、今後の生き方や育児についての学びを得る。							
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
				○		自然に触れながら、自ら意欲的に参加することができる。		
	○					講義の課題に対して、自らの考えを積極的に発して議論することができる。		
		○				農作業体験と講義の内容を通して「食」と「環境」について改めて深く考えることができる。		
		○				自らの置かれている「環境」について受けている影響についての学びを深めることができる。		
テキスト・教材 参考図書	なし							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1	1日目	田植え体験・畑仕事体験					
	2	1日目	田植え体験・畑仕事体験					
	3	1日目	田植え体験・畑仕事体験					
	4	1日目	講義			実体験と講義の内容を踏まえて、別途にレポートを作成		
	5	2日目	稲刈り体験・畑仕事体験					
	6	2日目	稲刈り体験・畑仕事体験					
	7	2日目	稲刈り体験・畑仕事体験					
	8	2日目	講義			実体験と講義の内容を踏まえて、別途にレポートを作成		
	9							
	10							
	11							
	12							
	13							
	14							
15								
評価方法	(1)授業の中で清書した履歴書を試験のかわりとして評価する。 (2)出席を意欲点として評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	行事への参加態度				◎		25%	
	講義の参加状況				○		25%	
	レポートの内容	◎	○				25%	
	ディスカッションの状況		○				25%	
履修上の注意	遅刻・欠席は認められない(該当する場合は再履修となる)。							

科目名	音楽表現(指導法)SC						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	村上京子		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	ピアノ講師		
対象学科・学年	社会福祉科 1年生						
授業概要	①ピアノ・音楽に親しみ、これまで培った表現力を活かして、お披露目の成功を目指して努力する。 ②歌唱や合唱を通して社会人としての基礎力(表現力、チームワーク、理解力、向上心)を磨く。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					歌唱表現: 歌の歌詞を理解し、相手に伝わるよう表情豊かに歌うことができる。	
					○	自主実行力: 他者からの助言がなくても自分で解読し、練習することができる。	
				○		楽典理解: 音楽の基礎となる楽典を理解し、楽譜を正確に読むことができる。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	1日目(授業中より取り組んでいる課題曲の合唱・合奏の練習)				授業時に練習した楽曲のリハーサルをしておく	
	2	1日目(授業中より取り組んでいる課題曲の合唱・合奏の練習)				授業時に練習した楽曲のリハーサルをしておく	
	3	1日目(授業中より取り組んでいる課題曲の合唱・合奏の練習)				授業時に練習した楽曲のリハーサルをしておく	
	4	1日目(授業中より取り組んでいる課題曲の合唱・合奏の練習)				授業時に練習した楽曲のリハーサルをしておく	
	5	2日目(授業中より取り組んでいる課題曲の合唱・合奏の練習)				授業時に練習した楽曲のリハーサルをしておく	
	6	2日目(練習した内容を保育園にてお披露目)					
	7	2日目(練習した内容を保育園にてお披露目)					
	8	総合しての振り返り					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	スクーリングにおける参加状況と意欲点として評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	実技(歌唱・楽器演奏)	◎					80%
	参加状況				◎		20%
履修上の注意	①遅刻・欠席は認められない(該当する場合は再履修となる)。						

科目名	生涯スポーツSC						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	水上勝彦		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	保育運動教室指導者として勤務		
対象学科・学年	社会福祉科1年						
授業概要	平均寿命の延伸に伴い、一人ひとりのライフスタイルや年齢、体力、運動技能に応じて、生涯にわたり様々な形でスポーツとの関わる機会を設け、スポーツにおける多くの意義と役割を暮らしの中に取り入れることを念頭に置き、生涯を通じて、いつでも、どこでも、誰でも趣味的な観点でスポーツに親しむことができることを目標にする。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
				○		グループやクラス内において積極的な協力を実践することができる。	
		○				健康寿命の考えを念頭に置き、生涯に渡って活動することについて学びを深めることができる。	
	○					スポーツを行う中で、しっかりとコミュニケーションを図ることができる。	
		○				レクリエーションの要素を含めながらの運営を意識することで学ぶことができる。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	1日目(専門学校実施の体育祭への参加)				体育祭に向けて、クラス内にて団結して準備する。	
	2	1日目(専門学校実施の体育祭への参加)				体育祭に向けて、クラス内にて団結して準備する。	
	3	1日目(専門学校実施の体育祭への参加)				体育祭に向けて、クラス内にて団結して準備する。	
	4	1日目(専門学校実施の体育祭への参加)				体育祭に向けて、クラス内にて団結して準備する。	
	5	2日目(スポーツ競技を通じての関わりを持つ)				特になし	
	6	2日目(スポーツ競技を通じての関わりを持つ)				特になし	
	7	2日目(スポーツ競技を通じての関わりを持つ)				特になし	
	8	2日目(スポーツ競技を通じての関わりを持つ)				特になし	
	9	3日目(生涯健康を念頭に実施することができるスポーツを行う)				特になし	
	10	3日目(生涯健康を念頭に実施することができるスポーツを行う)				特になし	
	11	3日目(生涯健康を念頭に実施することができるスポーツを行う)				特になし	
	12	3日目(生涯健康を念頭に実施することができるスポーツを行う)				特になし	
	13						
	14						
15							
評価方法	スクーリングにおける参加状況と意欲点として評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	グループ内での協働・参加状況				◎		50%
	レポート作成		○				50%
履修上の注意	遅刻・欠席は認められない(該当する場合は再履修となる)。						

科目名	相談援助の基盤と専門職 I						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	熊谷 妙子		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	高齢者・障がい者施設にて相談員・施設長として勤務		
対象学科・学年	社会福祉科 1年						
授業概要	社会福祉の原点でもある「相談援助」を行う上で必要なスキルを身に付け、専門性とは何かを学ぶことを目的とする。自分自身のコミュニケーションの癖や習慣を見つめ、専門職としてどのようにして人と接するかを考察する。また、SNSなどの非対面ではなく、福祉現場に出た際に必須となる対面スキルの向上に向けて、理論と演習を一体とした授業を行う。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○		○		人の命や尊厳や人権についての理解を深める	
				○		自分と他社の価値観の違いを理解し、受け入れることができる	
	○	○		○		基本的なコミュニケーションスキルを身に付ける	
	○	○		○		相談援助を行う上で不可欠なチームプレイを重視した動きができるようになる	
テキスト・教材 参考図書	・全国社会福祉協議会「福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程テキスト」						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	福祉職員を目指す心構え				授業で学んだことを意識して、日々、実践を意識すること	
	2	命と尊厳①				授業で学んだことを意識して、日々、実践を意識すること	
	3	自己覚知 アンガーマネジメント①				授業で学んだことを意識して、日々、実践を意識すること	
	4	アンガーマネジメント①演習				授業で学んだことを意識して、日々、実践を意識すること	
	5	相談援助の基本 傾聴①				授業で学んだことを意識して、日々、実践を意識すること	
	6	傾聴①演習				授業で学んだことを意識して、日々、実践を意識すること	
	7	接遇の基本①				授業で学んだことを意識して、日々、実践を意識すること	
	8	接遇の演習①				授業で学んだことを意識して、日々、実践を意識すること	
	9	会話を発展させる コーチング①				授業で学んだことを意識して、日々、実践を意識すること	
	10	コーチング①演習				授業で学んだことを意識して、日々、実践を意識すること	
	11	専門職の視点を養う リスクマネジメント①				授業で学んだことを意識して、日々、実践を意識すること	
	12	リスクマネジメント①演習				授業で学んだことを意識して、日々、実践を意識すること	
	13	仲間と仕事を深める メンバーシップ①				授業で学んだことを意識して、日々、実践を意識すること	
	14	メンバーシップ演習				授業で学んだことを意識して、日々、実践を意識すること	
15	1年間のまとめ				1年間を振り返り、2年生に活かすこと		
評価方法	(1)小テスト(2)宿題・レポート(3)発表・作品についてを評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	小テスト	◎	○				50%
	宿題・レポート	◎	◎		◎		20%
	発表・作品	◎	◎		◎		30%
履修上の注意							

科目名	人体の構造と機能及び疾病(人体生理学)						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	川端 いづみ		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	養護教諭		
対象学科・学年	社会福祉科1年						
授業概要	<p>・人体の基礎知識や生理機能を理解し、社会的に関心の高い問題と関連させることで実生活における人体生理学の知識の活用能力の向上を目指す。</p> <p>・生命科学などの関連分野の知識を含め、いろいろな生物との比較からヒトの特徴を把握し、人間中心から、よりグローバルな視野でヒトを見つめなおす姿勢を身につける。</p>						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		子どもの保健の意義について知る。	
	○	○		○		子どもの心身の正常な発育、及び発達段階各期の特徴を理解する。	
	○	○		○		子どもの疾病、事故、その予防と対策について理解する。	
	○	○		○		保育者として、応急処置全般を理解する。	
テキスト・教材 参考図書	「人体生理学」						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	身体発育と保健				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。	
	2	生理機能の発達と保健				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。	
	3	運動機能の発達と保健				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。	
	4	精神機能の発達と保健				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。	
	5	子どもの精神保健				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。	
	6	子どもの生活と健康				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。	
	7	子どもの疾病の特徴				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。	
	8	呼吸器疾患				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。	
	9	感染症・予防接種				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。	
	10	消化器・循環器疾患				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。	
	11	泌尿器・生殖器疾患				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。	
	12	中枢神経系疾患・代謝内分泌疾患				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。	
	13	整形外科・血液疾患				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。	
	14	現場で役立つ救急時の対応				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。	
15	子どもの事故防止対策と安全教育				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。		
評価方法	毎回小テストを実施します。合わせて定期試験の点数、割合で評価します。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎		◎		80%
	小テスト	○	○		○		10%
	発表	○	○		○		10%
履修上の注意	出席が10回未満の者は評価の対象としません。						

科目名	障害の理解						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	瀧口直子		
実施年度	2020	実施時期	後期	担当者実務経験	児童発達支援事業にて療育		
対象学科・学年	社会福祉科1年						
授業概要	多様な社会福祉分野において、障害児者とその家族への理解と支援は重要な専門性の一つだと考えている。そこでまず、障害に関する基礎的な知識の習得を目指す。そして、障害や発達のアンバランスがあるために生じる日常生活・社会生活における困難さを、徹底して、本人目線で考えていく。さらに、発達心理や乳幼児心理などの科目とリンクしながら、障害と発達、生活という3つの視点から障害児者を理解できるようになることを目指す。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					主な障害の定義や症状などの概要を理解して説明できる。	
		○				それぞれの症状を理解したうえで、日常生活・社会生活における“本人の生きづらさ”を説明できる。	
		○				それぞれ障害によってもたらされる本人の困り感を理解したうえで、必要な支援・配慮を説明できる	
		○				障害がある子どもや大人の家族や地域・社会の状況と必要な支援について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション					
	2	「障害」とは…困難さをもって生きる人たち					
	3	障害の理解(1)知的障害・ダウン症					
	4	障害の理解(2)肢体不自由・重症児					
	5	障害の理解(3)聴覚障害					
	6	障害の理解(4)視覚障害					
	7	前半まとめ					
	8	障害の理解(5)発達障害-自閉症スペクトラム障害①					
	9	障害の理解(5)発達障害-自閉症スペクトラム障害②					
	10	障害の理解(5)発達障害-自閉症スペクトラム障害③					
	11	障害の理解(6)発達障害-AD/HD					
	12	障害の理解(7)発達障害-学習障害					
	13	障害の理解(8)その他の障害					
	14	後半のまとめ					
15	補講(療育について)						
評価方法	(1)定期試験 (2)発表・授業態度など (3)宿題・ミニレポートなど 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				80%
	発表・授業態度など				◎		10%
	宿題・ミニレポートなど		◎		◎		10%
履修上の注意							

科目名	教育原理						
科目名(英)	principle of education						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	川原ゆり		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	障害児治療教育センター相談員・養護教員		
対象学科・学年	社会福祉科1年生						
授業概要	社会福祉科では保育所の保育士ではなく、「施設保育士」を養成することを目標としている。この科目は「保育士」資格を取得するための近大科目で、「保育」とは教育と養護を併せ持つ概念であり、「保育士」を取得するということは＝「教育者」であるという視点が必要である。また人間が学校へ行き、勉強するのは社会性と共に思考力を身につけるためであり、社会福祉の「人財」として求められる「問題解決能力」を培うためには学習して行き続けることが重要であることを理解できるようにする。さらに、教育者になるために自分自身がどのように自分を見つめ、自分を成長に導けばいいかを考えるきっかけとする。併せて、この科目は近畿大学通信教育のレポート科目であるため、レポートを作成する中で論理的思考を養う。						
授業形式	講義： ○	演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○		△		保育とは何かを理解し、レポートとして文章にすることができる。	
		○		△		学校教育において勉強をする意味は何かを理解し、レポートとして文章にすることができる。	
		○		△		保育士となるためには知識や技術だけでなく、人間性を豊かにすることが大切であると理解する。	
		○		△		法律や制度、歴史等を理解し、自分の知識を広げることができ、考察力が向上する。	
	○		△		現代の子どもたちの置かれた状況に関心を持ち、自ら調べ、説明することができる。		
テキスト・教材 参考図書	近大教科書『保育のための教育原理』垂水直樹・金俊華・大間敏行・三木一司著 ミネルヴァ書房						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	「教育」とは？教育を学ぶ意義～イントロダクション					
	2	「教育」と「保育」の関係について～レポート1冊目説明				レポート作成	
	3	レポート1冊目作成				レポート作成	
	4	学校教育はなぜ必要なのか～レポート2冊目の説明				レポート作成	
	5	レポート2冊目作成				レポート作成	
	6	現代社会の子育て・子どもの実態(調べ学習～科目試験対策)				調べ学習→発表の準備	
	7	現代社会の子育て・子どもの実態(調べ学習～科目試験対策)				調べ学習→発表の準備	
	8	現代社会の子育て・子どもの実態(調べ学習～科目試験対策)				調べ学習→発表の準備	
	9	現代社会の子育て・子どもの実態(調べ学習～科目試験対策)				調べ学習→発表の準備	
	10	現代社会の子育て・子どもの実態(グループ発表)+補足の授業①				発表	
	11	現代社会の子育て・子どもの実態(グループ発表)+補足の授業②				発表	
	12	現代社会の子育て・子どもの実態(グループ発表)+補足の授業③				発表	
	13	現代社会の子育て・子どもの実態(グループ発表)+補足の授業④				発表	
	14	現代社会の子育て・子どもの実態(グループ発表)+補足の授業⑤				発表	
15	まとめ						
評価方法	(1)授業の出席状況。 (2)レポートと調べ学習への取り組み状況と理解度。 (3)科目試験の対象となるため定期試験は行わない。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート作成	◎	◎		◎		40%
	調べ学習	◎	◎		◎		40%
	意見発表・グループワーク	○	◎		◎		10%
	出席状況				◎		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、評価の対象としない。レポート2冊を提出しなければ科目試験を受験できない。						

科目名	社会的養護 I						
科目名(英)	Social care						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	中山八保子		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	保育所、児童養護施設、児童発達支援センターにおいて、 保育士として勤務		
対象学科・学年	社会福祉科1年						
授業概要	前期の「児童と環境」から社会的養護について学習した内容を更に深く掘り下げる。社会的養護(児童養護施設、乳児院など)と家庭養護(里親制度、養子縁組制度など)の違いを理解し、社会的養護を必要とする子どもたちの課題、問題点について、保育士としてどのような支援がもたらされているかを学ぶ。3年次における施設実習に繋がられるような授業を展開する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		施設での子どもたちの生活、保育者の生活指導について、事例より理解できる。	
	○	○		○		施設における自立に向けての支援について説明できる。	
		○				施設の形態について4つ挙げ、説明することができる。	
		○				家庭養護において、里親の種類、役割について説明することができる。	
	○				養子縁組について内容を理解し、説明することができる		
テキスト・教材 参考図書	・相澤 仁、林 浩康 『社会的養護 I』 中央法規出版 2019年						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	科目ガイダンス、施設における日常生活について考える			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	施設における日常生活について、レポートを書く			レポートの資料を準備する		
	3	施設における自立に向けての支援について考える①			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	施設における自立に向けての支援について考える②			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	施設における自立に向けての支援についてレポートを書く			レポートの資料を準備する		
	6	グループに分かれて調べ学習①			調べ学習の資料を準備する		
	7	グループに分かれて調べ学習②			調べ学習の資料を準備する		
	8	発表① 児童虐待防止法について、小テスト			発表グループは事前の準備をしておくこと		
	9	発表② 児童の権利条約について、小テスト			発表グループは事前の準備をしておくこと		
	10	発表③ 大舎制、小舎制について、小テスト			発表グループは事前の準備をしておくこと		
	11	発表④ ファミリーホーム、地域小規模児童養護施設について			発表グループは事前の準備をしておくこと		
	12	発表⑤ 里親制度について、小テスト			発表グループは事前の準備をしておくこと		
	13	発表⑥ 特別養子縁組について 小テスト			発表グループは事前の準備をしておくこと		
	14	科目試験対策、まとめ			科目試験に関する資料を準備しておくこと		
15	科目試験対策、まとめ			科目試験に関する資料を準備しておくこと			
評価方法	(1)出席率 (2)授業への参加状況(グループでの調べ学習状況) (3)グループで発表する。(4)レポートを2冊提出する。(5)小テストを6回実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	出席率				○		10%
	授業態度				○		10%
	グループ発表	◎			◎		40%
	レポート提出	○	◎		◎		30%
小テスト	◎	◎				10%	
履修上の注意	近大科目試験に合格しないと保育所実習には行けない。						



科目名	児童の心理学						
科目名(英)	Children's Psychology						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	若狭 恵美		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	知的障害児・者施設にて保育士として勤務		
対象学科・学年	社会福祉科1年生						
授業概要	保育実践に関わる発達理論等の心理学知識と実技を融合し、実技の基礎と表現についての知識と表現方法を学んでいく。発達段階に応じた実践保育、その狙いや役割を理解し習得していくことを目指す。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
	※ 主たる方法:○ その他:△						
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
				○		与えられた課題に対して自ら考え意欲的に学び、試行錯誤し表現することができる	
		○				日常的な手遊びや童歌を習得し、月齢や場に即した工夫をすることができる。	
	○					子どもの発達段階を理解し、それに即した遊びと環境を用意することができる。	
		○				絵本、紙芝居、手遊びの実践を通して養護と教育の一体聖へ応用できる。	
	○					保育を指導したり子どもと体験するうえでの留意点やねらいを考え述べるることができる。	
テキスト・教材 参考図書	保育に生かす教育心理学 伊藤健次 編 ナツメ社 わらべうたあそび120						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	授業ガイダンス～絵本・紙芝居の持つ効果と特性を知る～				授業内で自己紹介をするので、どう伝えるか事前に考えること	
	2	紙芝居を用いて自己紹介・発表				自作の紙芝居を発表できるようにしておく	
	3	0～5歳 年齢別発達～調べ学習～絵本				絵本を持参する	
	4	0～5歳 年齢別発達～調べ学習～紙芝居				紙芝居を持参する	
	5	0～5歳 年齢別発達～調べ学習～まとめ				はさみとのりの特性、安全な使い方を整理すること	
	6	手遊び・わらべ歌に親しむ 保育教材を知る				グループ内で事前に話しておくこと	
	7	0・1・2歳 調べ学習 発表				グループ内で事前に話しておくこと	
	8	3・4・5歳 調べ学習 発表				紙芝居を事前に読んでしておく	
	9	子どもの対象年齢に即して、絵本・紙芝居を読み聞かせ(発表準備)				声色や読み聞かせ方など考えておく	
	10	子どもの対象年齢に即して、絵本・紙芝居を読み聞かせ(発表)				声色や読み聞かせ方など考えておく	
	11	子どもの対象年齢に即して、絵本・紙芝居を読み聞かせ(まとめ)				声色や読み聞かせ方など考えておく	
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)授業内で制作した作品、指導案、振り返りレポートの提出、(2)発表を通しての表現力 以上を下記の観点・割合で評価する。成績評価基準はS(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	課題の提出						
	意見発表・グループワーク		◎		◎		20%
	出席状況		◎	○	◎		80%
履修上の注意							

科目名	英会話 I						
科目名(英)	English Conversation I						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	脇野真帆		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	保育士として8年 英語講師として21年		
対象学科・学年	社会福祉科 1年						
授業概要	わが国のグローバル化が進む中、日常英会話は社会人としての常識になりつつある。医療福祉の現場にも外国人が入るようになり、ベーシックな英会話、医療用語などの知識を習得しておくことは必須である。中学までの英語を再度復習し、基礎英会話力をしっかり身につける。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				中学英語までの文法を再度復習し、主語述語目的語の文を作ることができる。	
	○	○				簡単な英会話ができるようになる。	
	○	○				子どもがかかりやすい病気、怪我、状況を英語で説明できるようになる。	
	○		○			英語のあそび歌、絵本の翻訳にも挑戦し、保育実習でも活用できるようにする。	
			○			英語の手話で自己紹介ができるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	Happy English, Let's Go, Oxford Picture Dictionary, English Time						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	Unit1 挨拶 自己紹介 人に何かを頼む表現			テキストを事前に読んでおくこと		
	2	Unit2 道案内 位置を伝える表現			テキストを事前に読んでおくこと		
	3	Unit3 登園時の会話			テキストを事前に読んでおくこと		
	4	Unit4 好きなもの嫌いなものを聞く表現			テキストを事前に読んでおくこと		
	5	Unit5-6 園内での会話 桃太郎 かぐや姫を英語で読む			昔話の翻訳をします。辞書を持参してください。		
	6	Unit7-8 保護者からの相談 アレルギーの有無を伝える表現			テキストを事前に読んでおくこと		
	7	Unit9-10 園行事予定についての会話			テキストを事前に読んでおくこと		
	8	研究発表					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)レポートの提出 (2)研究発表 (3)小テスト 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	発表				◎		80%
	小テスト	◎	◎				10%
	宿題・レポート				◎		10%
履修上の注意							

科目名	英会話 I SC						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	脇野真帆		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	保育士として8年 英語講師として21年		
対象学科・学年	社会福祉科1年						
授業概要	英会話 I の授業を通して学んだことを活かしつつ、日本独自の「おもてなしの精神」を備えてのレクリエーションを実施することで、実際に外国人の方々とコミュニケーションを図り楽しんでいただくことができることを目指す。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
				○		グループやクラス内において積極的な協力を実践することができる。	
		○				レクリエーションの要素を含めながらの運営を意識することでできる学びを得ることができる。	
	○					レクリエーションを行う中で「伝える」ということを意識して、しっかりとコミュニケーションを図ることができる。	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	1日目(2日目に向けての準備、レクリエーションの計画立案、シュミレーション)					
	2	1日目(2日目に向けての準備、レクリエーションの計画立案、シュミレーション)					
	3	1日目(2日目に向けての準備、レクリエーションの計画立案、シュミレーション)					
	4	1日目(2日目に向けての準備、レクリエーションの計画立案、シュミレーション)				準備に対して入念なりハーサルを行う。	
	5	2日目(外国人をお招きしてのレクリエーションの実施・コミュニケーション)					
	6	2日目(外国人をお招きしてのレクリエーションの実施・コミュニケーション)					
	7	2日目(外国人をお招きしてのレクリエーションの実施・コミュニケーション)					
	8	2日目(まとめ・振り返り)					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	スクーリングにおける参加状況と意欲点として評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	グループ内での協働・参加状況				◎		50%
	レポート作成		○				50%
履修上の注意	遅刻・欠席は認められない(該当する場合は再履修となる)。						

科目名	児童と音楽表現SC						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	森田ゆかり・亀谷菜		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	専門学校にて非常勤講師として勤務		
対象学科・学年	社会福祉科 1年						
授業概要	①ピアノ・音楽に親しみ、これまで培った表現力を活かして、お披露目の成功を目指して努力する。 ②歌唱や合唱を通して社会人としての基礎力(表現力、チームワーク、理解力、向上心)を磨く。 ③ピアノ・合唱・合奏を習得する課程を通して、音楽を通しての児童への関わる方法を学ぶことができる。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					歌唱表現: 歌の歌詞を理解し、相手に伝わるよう表情豊かに歌うことができる。	
					○	自主実行力: 他者からの助言がなくても自分で解読し、練習することができる。	
				○		楽典理解: 音楽の基礎となる楽典を理解し、楽譜を正確に読むことができる。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	1日目(授業中より取り組んでいる課題曲の合唱・合奏の練習)				授業時に練習した楽曲のリハーサルをしておく	
	2	1日目(授業中より取り組んでいる課題曲の合唱・合奏の練習)				授業時に練習した楽曲のリハーサルをしておく	
	3	1日目(授業中より取り組んでいる課題曲の合唱・合奏の練習)				授業時に練習した楽曲のリハーサルをしておく	
	4	1日目(授業中より取り組んでいる課題曲の合唱・合奏の練習)				授業時に練習した楽曲のリハーサルをしておく	
	5	2日目(授業中より取り組んでいる課題曲の合唱・合奏の練習)				授業時に練習した楽曲のリハーサルをしておく	
	6	2日目(練習した内容をホールにてお披露目)					
	7	2日目(練習した内容をホールにてお披露目)					
	8	総合しての振り返り					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	スクーリングにおける参加状況と意欲点として評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	実技(歌唱・楽器演奏)	◎					80%
	参加状況				◎		20%
履修上の注意	①遅刻・欠席は認められない(該当する場合は再履修となる)。						

科目名	人間関係(指導法)SC						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	川原ゆり		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	障害児治療教育センター相談員・養護学校教員		
対象学科・学年	社会福祉科1年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「人間関係」に関する教育・保育内容に関する内容を、グループ活動の経験をもとに習得する。</li> <li>・実体験を踏まえて、自身の経験を子どもの発達における「人間関係」の観点から再考するきっかけを設ける。</li> <li>・グループ活動を通して保育・福祉において不可欠な「自己覚知」「他者理解」を行うことで、人間関係の構築と豊かな関わりを経験することで、保育者としての役割について学習する。</li> </ul>						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
				○		グループにおいて積極的な協力を実践することができる。	
		○				他メンバーとの関わりにおいて「自己覚知」「他者理解」の視点から客観的に関わる事ができる。	
	○					積極的に協力することで、実際の活動に向けての運営を実践することができる。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	1日目 交流会①グループに分かれて交流を深める計画を立案、協議				事前にグループ内にて顔合わせを行っておく。	
	2	1日目 交流会① 計画の実践					
	3	1日目 交流会① 計画の実践					
	4	1日目 実践に対するの振り返り・反省				交流会を通しての自己のあり方と他者への関わり方を振り返る。	
	5	2日目 交流会②グループに分かれて交流を深める計画を立案、協議				事前にグループ内にて顔合わせを行っておく。	
	6	2日目 交流会② 計画の実践					
	7	2日目 交流会② 計画の実践					
	8	2日目 実践に対するの振り返り・反省				交流会を通しての自己のあり方と他者への関わり方を振り返る。	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	スクーリングにおける参加状況と意欲点として評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	グループ内での協働・参加状況				◎		20%
	レポート作成		○				30%
	発表への準備と実践の状況	○			○		50%
履修上の注意	遅刻・欠席は認められない(該当する場合は再履修となる)。						

科目名	現代社会と福祉Ⅱ(社会福祉)						
科目名(英)	current social and welfare Ⅱ						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	山下琢也		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院・高齢者施設にてソーシャルワーカー		
対象学科・学年	社会福祉科・1年生						
授業概要	社会福祉の歴史について把握し、現在の法制等の仕組みに至るまでの経緯を踏まえ、「社会福祉」の基礎について理解し、その内容を論述することができる。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
	※ 主たる方法:○ その他:△						
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					福祉の基本的な考え方について理解することができる。	
		○				我が国における福祉の発展について理解することができる。	
		○				高齢者福祉施策の基礎・概要について理解することができる。	
		○				障害者福祉施策の基礎・概要について理解することができる。	
			○			自身の身近な身の周りの課題として捉え、真摯に向き合うことができる。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	ストレングスとエンパワーメント				関連する内容について読み、授業の内容を復習する	
	2	バリアフリーとユニバーサルデザイン				関連する内容について読み、授業の内容を復習する	
	3	福祉とは				関連する内容について読み、授業の内容を復習する	
	4	ノーマライゼーション				関連する内容について読み、授業の内容を復習する	
	5	社会福祉士について				関連する内容について読み、授業の内容を復習する	
	6	先人たちの功績				関連する内容について読み、授業の内容を復習する	
	7	我が国の福祉の発展①				関連する内容について読み、授業の内容を復習する	
	8	我が国の福祉の発展②				関連する内容について読み、授業の内容を復習する	
	9	介護保険制度について①				関連する内容について読み、授業の内容を復習する	
	10	介護保険制度について②				関連する内容について読み、授業の内容を復習する	
	11	障害者総合支援法について①				関連する内容について読み、授業の内容を復習する	
	12	障害者総合支援法について②				関連する内容について読み、授業の内容を復習する	
	13	社会福祉基礎構造改革について①				関連する内容について読み、授業の内容を復習する	
	14	社会福祉基礎構造改革について②				関連する内容について読み、授業の内容を復習する	
	15	社会福祉基礎構造改革について③				関連する内容について読み、授業の内容を復習する	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業に出席するのではなく、「参加」し、積極的な姿勢についてを評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	発表・授業参加度				◎		20%
履修上の注意	毎回の授業でパソコン(パワーポイント)を使用します。可能であれば様々な動画を通じて考える機会を設けたいと思いますので、動画放映の準備をお願いします。出席が2/3に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えません。						

科目名	相談援助演習Ⅱ						
科目名(英)	Social Work ExercisesⅡ						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	川原ゆり・山下琢也・若狭恵美		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	専門学校に常勤職員として勤務		
対象学科・学年	社会福祉科・1年生						
授業概要	相談援助を学ぶに際して、技術的な内容を駆使することも求められる部分ではある。しかし、当事者の心理・状況を理解することにより、今後の相談援助実習につなげる「人間として」の土台を育むとともに、寄り添った実践を行うことができるようにする。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					自身が体験し感じたことを相手に伝えるように発表することができる。	
					○	ソーシャルワークを実践する上で不可欠な、「自身の考えや思いをわかりやすく相手に伝える」ことを実践することができる。	
		○				高齢者・身体障害者の利用者様の現状と福祉施設の現場の状況を理解するとともに、当事者の意識を実感することができる。	
				○		自身の身近な身の周りの課題として捉え、当事者の置かれている状況と真摯に向き合うことができる。	
					○	相談援助実習に向けての経験を得ることで、自身の進むべき方向性を明確にすることができる。	
テキスト・教材 参考図書	配布プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション・ガイダンス					
	2	高齢者施設体験にむけて					
	3	高齢者施設体験①					
	4	高齢者施設体験②					
	5	高齢者施設体験③					
	6	高齢者施設体験④					
	7	高齢者施設体験 ふりかえり					
	8	障害者施設体験にむけて					
	9	障害者施設体験①					
	10	障害者施設体験②					
	11	障害者施設体験③					
	12	障害者施設体験④					
	13	障害者施設体験 発表準備					
	14	障害者施設体験 発表準備					
15	体験後発表 および まとめ						
評価方法	(1)授業に出席するのではなく、「参加」し、積極的な姿勢についてを評価する。(2)授業の内容にそった提出課題とレポートを課すこととし、その内容と提出状況を評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	発表・授業参加度				○		40%
	提出課題	○					20%
	レポート	○	○				20%
	パワーポイント資料	○					20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、評価を受ける資格を与えない。						

科目名	高齢者に対する支援と介護保険制度 I						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	中畔 政憲		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	介護老人保健施設にて 介護福祉士として勤務		
対象学科・学年	社会福祉科 1年生						
授業概要	核家族化に伴い、身近な存在として高齢者と接する機会が激減している。そこで社会福祉の単位実習に備え、高齢者特有の疾病や特長を学び、疑似体験などを通じて高齢者の心理を理解する。また、認知症や老化のために身体や頭の働きが鈍くなった場合の心理状態や支援方法等を知る。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					高齢者福祉の基礎知識を学び、理解を深めることができる。	
		○		○		動画や疑似体験を通して、高齢者の身体状況や心理状況について理解を深めることができる。	
		○				認知症の症状とその支援方法について理解することができる。	
		○				介護保険法の概要について理解することができる。	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション～老化とは…					
	2	平均寿命、高齢化社会について					
	3	人生設計について考える～ライフプラン作成					
	4	記憶について ① ～ 記憶の仕組みについて					
	5	記憶について ② ～ 感覚記憶・短期記憶・長期記憶について					
	6	高齢者疑似体験 (演習)					
	7	高齢者疑似体験 (演習)					
	8	認知症について ～原因と種類及び症状について					
	9	若年性認知症について ① DVD『明日の記憶』鑑賞					
	10	若年性認知症について ② DVD『明日の記憶』鑑賞					
	11	認知症について ～中核症状と周辺症状(BPSD)					
	12	認知症ケアについて (映像視聴)					
	13	介護保険法の概要について理解する					
	14	高齢者施設の種類と概要について理解する ～ 介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)とは					
15	まとめ						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業に出席するのではなく、「参加」し、積極的な姿勢についてを評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	発表・授業参加度				◎		20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						



科目名		音楽表現 I ②					
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	48時間	担当者	森田ゆかり・村上京子・西頭輝子・亀谷菜		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	学校にて非常勤講師として勤務		
対象学科・学年		社会福祉科・1年					
授業概要		1・ピアノに親しみ、2年次までの2年間で表現力、テクニックを磨き、修了コンサートの成功を目指して努力する。 2・音楽の基本的な理解と、音楽活動での様々な楽器の習得を目指します。 3・歌唱や合唱を通して社会人としての基礎力(表現力・チームワーク・理解力・向上心)を磨きます。					
授業形式		講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
				○		音楽の基礎となる楽典を理解し、楽譜を正確に読むことができる。	
	○					楽譜に書かれている音を自分のものにし、表現することができる。	
		○				歌の歌詞を理解し、相手に伝わるよう表情豊かに歌うことができる。	
				○		他者からの助言がなくても、自分で解説し練習することができる。	
			○		自主練によってテクニックを磨き、技術を習得することができる。		
テキスト・教材 参考図書		近畿大学九州短期大学 音楽 ピアノ教本 近畿大学九州短期大学 音楽 声楽教本					
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	夏休みの課題練習。 歌(線路は続くよどこまでも・手をたたきましょう)				課題曲発表に向けて練習。	
	2	夏休み課題曲お披露目。 歌(ふしぎなポケット・おんまはみんな) 合唱(ビリーブ)				お披露目コンサートを終えての反省、復習。	
	3	各自テキスト曲練習。各自課題進度に沿ってG.Fスケール導入。 歌(おはなし・おかえりのうた)合唱(ビリーブ)				小テストへ向けての練習。	
	4	各自テキスト曲練習。G.Fスケール導入。 歌(ななつの子・月)合唱(ビリーブ)				小テストへ向けての練習。	
	5	各自テキスト曲練習。G.Fスケール導入。 歌(虫の声・まつぼっくり)合唱(ビリーブ)				小テストへ向けての練習。	
	6	各自テキスト曲練習。G.Fスケール練習。 歌(虹の向こうに・どんぐりころころ)合唱(ビリーブ)				小テストへ向けての練習。	
	7	各自テキスト曲練習。G.Fスケール練習。 歌(手のひらを太陽に・きのこ)合唱(ビリーブ)				小テストへ向けての練習。	
	8	G.Fスケール小テスト練習(前のピアノで) 各自テキスト曲練習。歌(夕焼け小焼け・どんな色が好き)				小テストへ向けての練習。	
	9	G.Fスケール小テスト練習(前のピアノで) 各自テキスト曲練習。歌(やきいもグーチーパー・おもちゃのマーチ)				小テストへ向けての練習。	
	10	小テスト(G.Fスケール)ピアノ(おかえりのうた)各自テキスト曲練習。 歌(いもほりのうた・やまびこっこ)				おかえりのうたを軽やかに弾けるよう目指して練習する。	
	11	ピアノ(おかえりのうた)各自テキスト曲練習。 歌(かもつれっしや・虹) 修了コンサートでの合唱練習(ビリーブ他)				おかえりのうたを軽やかに弾けるよう目指して練習する。	
	12	ピアノ(おかえりのうた)各自テキスト曲練習。 歌(大きな栗の木の下で・真っ赤な秋) 修了コンサートでの合唱練習(ビリーブ他)				おかえりのうたを軽やかに弾けるよう目指して練習する。	
	13	ピアノ(おかえりのうた)各自テキスト曲練習。 歌(森のくまさん) 修了コンサートでの合唱練習(ビリーブ他)				おかえりのうたを軽やかに弾けるよう目指して練習する。	
	14	ピアノ(おかえりのうた)各自テキスト曲練習。 歌(宇宙船の歌) 修了コンサートでの合唱練習(ビリーブ他)				おかえりのうたを軽やかに弾けるよう目指して練習する。	
	15	ピアノ(おかえりのうた)各自テキスト曲練習。 歌(ドロップスのうた) 修了コンサートでの合唱練習(ビリーブ他)				おかえりのうたを軽やかに弾けるよう目指して練習する。	
	16	ピアノ(おかえりのうた)各自テキスト曲練習。 歌(カレンダーマーチ) 修了コンサートでの合唱練習(ビリーブ他)				定期実技試験へ向けて練習する。	
	17	ピアノ(おかえりのうた)各自テキスト曲練習。 歌(手のひらを太陽に・どんな色が好き) 修了コンサートでの合唱練習(ビリーブ他)				定期実技試験へ向けて練習する。	
	18	後期試験練習。ピアノ(おかえりのうた)歌(手のひらを太陽に・どんな色が好き)				定期実技試験へ向けて練習する。	
	19	後期試験練習。ピアノ(おかえりのうた)歌(手のひらを太陽に・どんな色が好き)				定期実技試験へ向けて練習する。	
	20	後期ピアノ実技試験(おかえりのうた) 歌唱試験(手のひらを太陽に・どんな色が好き)				後期試験を振り返り反省、復習。	
	21	修了コンサート練習。ベル・アンサンブル・合唱				合唱の曲2曲の歌詞を確実に覚える。	
	22	修了コンサート練習。ベル・アンサンブル・合唱				合唱の曲2曲の歌詞を確実に覚える。	
	23	修了コンサート練習。ベル・アンサンブル・合唱				ベル・アンサンブルの自主練習。	
	24	修了コンサート練習。ベル・アンサンブル・合唱				ベル・アンサンブルの自主練習。	
	25	修了コンサートゲネプロ				本番へ向けて最後の仕上げ。	
	26	修了コンサート					
評価方法	(1)ピアノ実技小テストを1回実施する。(2)定期実技試験(ピアノ実技試験と歌唱試験)を1回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期実技試験	◎	◎	○	○		70%
	小テスト			◎	○		10%
	内申点					◎	10%
課題進度					◎	10%	
履修上の注意	出席が17回に満たない場合は、定期試験、及び発表の受験資格を与えない。						

科目名	保育実習指導 I						
科目名(英)	Guidance to Child Care Field Study I						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	中山八保子・川原ゆり・若狭恵美		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	保育所、児童養護施設、児童発達支援センターにおいて、保育士として勤務(中山)		
対象学科・学年	社会福祉科1年生						
授業概要	これまでの保育園一日体験を踏まえ保育園の社会的役割や成り立ちの違いを正しく理解する。特に0、1、2歳児の細かな発達の違いや連続性、以上児への発達のつながりを理解し、実習の中で実践と知識をつなげより理解を深めるための基礎を培っていく。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	◎				保育実習の目的を正しく理解する	
		◎				「保育園の役割」について正しく理解し説明することが出来る	
		◎	◎			保育園訪問にあたっての電話や訪問のマナーを理解し実践できる	
テキスト・教材 参考図書	同文書院版 幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	授業オリエンテーション、実習の目的について					
	2	保育実習の流れについて(見学実習・事前実習・単位実習の意義)					
	3	実習生調査票について、調査票の記入について①					
	4	実習生調査票について、調査票の記入について②				実習施設への電話の掛け方、電話のマナーについて	
	5	実習が可能な施設の種類の種類について・見学実習先のリストアップ				保育園の情報収集を行っておくこと	
	6	見学実習先の最終候補の選定について				前回の授業でのリストアップをする	
	7	見学実習に向けての必要な知識・技術の習得①					
	8	見学実習に向けての必要な知識・技術の習得②					
	9	見学実習に向けての必要な知識・技術の習得③					
	10	見学実習に向けての必要な知識・技術の習得④					
	11	見学実習に向けての必要な知識・技術の習得⑤					
	12	見学実習に向けての必要な知識・技術の習得⑥					
	13	見学実習に向けての必要な知識・技術の習得⑦					
	14	見学実習に向けての必要な知識・技術の習得⑧					
15	見学実習に向けての最終確認(必要書類)						
評価方法	①授業態度 ②提出物 ③実践への取り組み 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業態度	○	◎		◎		50%
	提出物	◎			◎		20%
	取り組み		◎		◎	○	30%
履修上の注意	出席が10回に満たないものに単位の修得は認めない						

科目名	手話Ⅱ(手話検定5級)						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	井形 美子		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	手話奉仕員養成講座講師歴20年(現在も講師として活動中)		
対象学科・学年	社会福祉科 1年						
授業概要	手話は「音声言語」とは別の、手や指や体の動き、顔の表情などを使ったコミュニケーションである「視覚言語」であり、そのことは2006年、国際連合の総会において「障がい者権利条約」で「手話は言語である」とし採択された。2014年2月、その「障がい者権利条約」は我が国においても効力を発生し、手話言語条例が成立・制定した自治体もある。その「視覚言語」である手話を聴覚障がい者とのコミュニケーション手段のひとつとし「手話技能検定5級」を取得することを目指す。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				手話の特徴を選択することができる。	
				○		手話表現を選ぶことができる。	
テキスト・教材 参考図書	日本能率協会マネジメントセンター 「手話技能検定 公式テキスト 5・6・7級」改訂2版						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	手話技能検定について/7級(1) 指文字50音の表現確認			授業内容に係る確認テストを実施するので、予習しておくこと(0.5時間)		
	2	7級(2) まとめ			授業内容に係る確認テストを実施するので、予習しておくこと(0.5時間)		
	3	手話技能検定6級出題範囲の確認/6級(1) 31手話単語 習得			授業内容に係る確認テストを実施するので、予習しておくこと(0.5時間)		
	4	6級(2) 47手話単語 習得			授業内容に係る確認テストを実施するので、予習しておくこと(0.5時間)		
	5	6級(3) 23手話単語・手話数字 習得/7・6級(1) まとめ			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと(0.5時間)		
	6	7・6級(2) 模擬テスト			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと(0.5時間)		
	7	7・6級(3) 模擬テスト/手話技能検定5級出題範囲の確認			授業内容に係る確認テストを実施するので、予習しておくこと(0.5時間)		
	8	5級(1) 36手話単語・9手話例文 習得			授業内容に係る確認テストを実施するので、予習しておくこと(0.5時間)		
	9	5級(2) 54手話単語・5手話例文 習得			授業内容に係る確認テストを実施するので、予習しておくこと(0.5時間)		
	10	5級(3) 28手話単語・7手話例文 習得			授業内容に係る確認テストを実施するので、予習しておくこと(0.5時間)		
	11	5級(4) 18手話例文 習得/7・6・5級(1) まとめ			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと(0.5時間)		
	12	7・6・5級(2) 模擬テスト			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと(0.5時間)		
	13	7・6・5級(3) 模擬テスト			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと(0.5時間)		
	14	7・6・5級(4) 模擬テスト			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと(0.5時間)		
	15	7・6・5級(5) 総括			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと(0.5時間)		
評価方法	(1)授業の中で小テストを9回実施する。(2)授業の中で模擬テストを5回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	小テスト		◎		○		20%
	模擬テスト		◎		○		80%
履修上の注意							

科目名	レクリエーション II						
科目名(英)	recreation II						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	添田譲二		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	社会福祉科 1年						
授業概要	現代社会の中で、余暇やレクリエーションのもつ意味も、単なる気晴らしではなく充実した人生づくりの基盤の一つへと変化してきている。レクリエーションは、福祉社会の中での役割として生活の自立を促し人生の充実を図ると同時に協調性や思いやりなど人間形成にも影響をもっていると考えている。このような中でレクリエーションがもつプラスの価値をどのような支援体制で展開すればよいかを解説する。そこで、遊びを体験しながら遊びの必要性や支援方法を理解することを目標に授業を展開していく。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					レクリエーションの必要性を理解して説明できるようになる	
		○		○		レクリエーションの多くの素材を覚えて支援することができる	
		○		○		コミュニケーションの手段の一つとしてレクリエーションの素材を使い分けることができる	
テキスト・教材 参考図書	楽しい遊びの商店街 プリント資料【配付資料】						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	レクリエーション支援について(理論)					
	2	レクリエーションの素材の体験(ゲーム)					
	3	レクリエーションの素材のアレンジ方法(ゲーム遊び)					
	4	信頼関係づくり・ホスピタリティ(理論)					
	5	レクリエーションの素材体験(創作活動)					
	6	グループワーク・トレーニング①(素材別遊び創作)					
	7	グループワーク・トレーニング②(素材別遊び創作)					
	8	グループワーク・トレーニング③(素材別遊び創作)					
	9	楽しむための目標設定について(理論)					
	10	コミュニケーションについて体験活動(説得・納得)					
	11	レクリエーションの素材の体験(折り紙の世界)					
	12	レクリエーションの素材の体験(伝承あそび①)					
	13	レクリエーションの素材の体験(伝承あそび②)					
	14	レクリエーションの素材体験(思い出づくりのレクリエーション)					
	15	レクリエーション II のまとめ(理論)					
評価方法	授業中の課題に対して個人として取り組む。 グループを単位として、レクリエーション支援の企画をする。 授業の中で学んだレクリエーション情報をアレンジして、演習を通して提供する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	実技演習	○	○		◎		50%
	授業中の課題(個人)				○		30%
	授業中の課題(グループ)	○	◎		○		20%
履修上の注意	心にゆとりをもち、さわやかな笑顔で受講すること。 授業内容を楽しむ気持ちをもって受講すること。 目を輝かせ動作はハツラツとすること。						

科目名	コミュニケーション演習						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	矢野隆子		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	人材育成講師歴25年		
対象学科・学年	社会福祉科1年						
授業概要	対人援助職者はコミュニケーションの基本的な知識を踏まえ、その応用に習熟してコミュニケーションを發揮し、実践効果が期待できるようになることが望まれる。この授業ではワークやコミュニケーション場면을体験することで自己理解と気づきを深め、適切な対人行動を実践できることを目指す。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					互いの意志を伝え合う方法を学び、コミュニケーションの概念を説明することが出来る。	
		○				仕事の基本、報告、連絡、相談などのコミュニケーションの重要性を説明することが出来る。	
		○				聴く、話す、伝えるなどのスキルを身につけ、応用することができる。	
		○				上手な頼み方、断り方等の効果的コミュニケーションスキルを3つ以上説明することができる	
			○			周囲と協力しながら、肯定的で円滑なコミュニケーションを実践することができる。	
テキスト・教材 参考図書	金子書房 星野欣生 人間関係づくりトレーニング ・ 産業カウンセラー協会 ・ みつわ出版 滋慶教育科学研究所 コミュニケーションスキルアップ検定						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	科目ガイダンス・構成的グループエンカウンター					
	2	コミュニケーションの基本 一方通行・双方通行のコミュニケーション			資料の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	人間関係 人が人を理解すること 人間関係のトラブルを処理する時の基本					
	4	アサーションー相互尊重の自己表現			資料の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	アサーションー上手な頼み方、断り方			資料の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	仕事の基本「報告・連絡・相談」					
	7	互いに納得する「交渉」の仕方の仕方			資料の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	交渉に困らない「説得」の基本					
	9	プレゼンテーションー上手な伝え方					
	10	仕事の上で必要とされる表現技術ー話す方法を分かりやすくまとめる方法			資料の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	トラブルー葛藤とのつき合い方					
	12	アンガーマネジメントートラブルのもととなる感情の対処					
	13	コンセンサス					
	14	ストロークーふれ合うことの大切さ					
15	交流分析ー人生態度						
評価方法	(1) 定期試験(筆記)を実施する。(2) 授業への参加態度(ワークシート・振り返りシート提出) 成績評価基準はS(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
	ワークシート・ふり返し用紙				◎		10%
グループワーク				◎		10%	
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	交流ゼミ I					
科目名(英)						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	川原ゆり・山下琢也・若狭恵美	
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	常勤職員として専門学校に勤務	
対象学科・学年	社会福祉科1・2・3年生					
授業概要	社会福祉科の全学年の学生を混合し、グループを編成。そのグループ内で学年を超えた交流を図る。最終的には、当科で実施する「交流会」に向けての準備を行うことができる。					
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
				○		積極的な姿勢を持って、他学年の学生やグループ内の学生とコミュニケーションを図ることができる。
				○		物事の段取りを修正しながら、臨機応変な対応を行いつつも計画的に行事を実行することができる。
				○		物怖じすることなく、積極的にレクリエーションに参加することができる。
				○		グループの中心となり、レクリエーションを企画・運営することができる。
			○		人間同士の関わりの中で、人間関係の調整を図ることができる。	
テキスト・教材 参考図書	なし					
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1	グループ内の自己紹介・他己紹介				
	2	グループ内でのレクリエーション				
	3	グループ内でのレクリエーション				
	4	グループ内でのレクリエーション				
	5	グループ内でのレクリエーション				
	6	グループ内でのレクリエーション				
	7	社会福祉科「交流会」に向けての準備				
	8	社会福祉科「交流会」に向けての準備				
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
15						
評価方法	ゼミに臨む姿勢、態度が第一優先である。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	姿勢・態度				◎	
						評価割合
						100%
履修上の注意	2/3以下の出席状況にて、単位習得不可とする。					

科目名	造形表現Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	岡山直之		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	美術家歴35年		
対象学科・学年	社会福祉科1年生						
授業概要	前期に学んだ6つの技法を応用して、作品を制作し、発表する。 そのことで指導法を振り返り、自分のものとする。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○	○	○		造形技法を組み合わせたリ、応用を考えたりして作品を制作することができる。	
	○	○		○		作品のテーマを自ら思考してストーリーを構築することができる。	
	○			○		制作した作品を他者に発表し、自分の考えを表現することができる。	
	○	○	○	○		作品を制作することを通して、具体的に指導法を体験し、自らのものにできる。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	紙芝居制作① 今までにないストーリーを考える				大切なテーマを考えておく	
	2	紙芝居制作② そのストーリーと6つの技法で構成を考える				テーマを基にストーリーを組み立てる	
	3	紙芝居制作③ 各場面のスケッチをする					
	4	紙芝居制作④ ストーリー、テーマ、スケッチを検証する				制作に必要な画材を用意する	
	5	紙芝居制作⑤ 制作に入る					
	6	紙芝居制作⑥ 制作に入る				発表の方法(衣装、音楽など)を工夫するようしておく	
	7	紙芝居制作⑦ 制作に入る				発表の方法(衣装、音楽など)を工夫するようしておく	
	8	紙芝居制作⑧ 作品を発表する(レポート作成含む)				レポート作成も同時進行	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	①レポートを数回実施する ②作品を制作しそれを発表する 以上を下記の観点・割合で評価する						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート	○	○		○		50%
	作品・発表	○	◎	○	◎		50%
履修上の注意							